

2020年に向かう夢

三井所清典

公益社団法人日本建築士会連合会 会長



あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、全国の建築士会の皆様と建築士の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は年末にかけてなにかと不安を覚えることが多く、明るく前向きになりにくい気分でしたが、年頭に当たって大きな夢の話をさせていただきます。

昨年は2020年のオリンピック開催の予定地に東京が選ばれました。招致に向けたスポーツ選手たちのアピールには日本人として素直に感動もいたしました。結果として多くの外国の人たちを迎えることになるのですが、スポーツ関係者以外の私たちはどのような準備をして、どのような「おもてなし」をしたらよいのでしょうか。

大津波対策と復興を見事になし遂げて、その街や生活の姿を案内して廻りたい。原子力発電所の事故で汚染されたふるさとに帰還できない長期避難者の新しい街が完成し、新しい土地でコミュニティを再生して普通の生活を取り戻している若若男女の姿を見せたい。福島原子力発電所の廃炉が日本の確実な技術で粛々と進行している様子を公開したい。中間処理や永久処理の方策の目処が立ち、前途に明るい世界を描きたい。これらのことは、現在取り組まれている震災復興がはかばかしく進んでいないことからの「夢」ですが、これらは決して夢であってはいけないものばかりです。

視点を変えて、日本らしい日本に来たという感動を外国の人たちに味わってもらうことができたらどんなにいいかと思えます。「日本らしい味わい」を東京の至るところで感得してもらうことです。「東京」だから、日本中のいろいろの「和の味わい」が集まってもいい。「東京」だから「江戸の味わい」が強く出てい

もいい。その線でいくと、着物の柄などで発達していた江戸小紋などがさまざまな現代のデザインの中に活かされて、街の中で楽しめるのもいい。歩道の舗装や外灯、ショウウィンドウのデザインなど街並みの中のさまざまなものに「和の味わい」をつくり出すことはできないでしょうか。都市デザイン、建築のデザイン、室内装飾のデザイン、工業デザイン、ランドスケープデザイン、橋などの土木デザイン、列車や飛行機のデザイン。あらゆる分野のデザイナーたちが一斉に「和の味わい」を意識して動き出せば、夢が実現するかも知れません。あまり気づかれていないかも知れませんが、モダンな「ジャパニーズ・テイスト」のデザインで再開発された有名な都心の開発があります。六本木の東京ミッドタウンです。聞くところによると、アメリカの大きな建築設計事務所の建築家が提案した基調デザインが「ジャパニーズ・テイスト」で、実施に携わった日建設計の人たちや隈研吾さんなどの建築家のデザインからテナントの店舗デザインまで、「ジャパニーズ・テイスト」のデザインで徹底されています。

よく日本の新しい街並みは調和がないと言われますが、東京の都心でもやろうと思えばできるのです。東京オリンピックをめざし、2020年までの間に東京のデザイン大改修の夢をみんなで実現したいものです。

伝統的な「和の味わい」や新しい「ジャパニーズ・テイスト」などさまざまな「日本の味わい」をみんなでデザインし、世界中の人たちを「おもてなし」する大きな夢のお話です。

建築士の皆様、さらなる地域貢献活動や省エネの実践等、2020年に向かって、今年もどうぞ宜しくお願いいたします。